



Title	<翻訳>Valle-Inclánの『ボヘミアンの光』（翻訳と訳注）（その2）
Author(s)	堀内, 研二
Citation	Estudios Hispánicos. 2007, 31, p. 49-86
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/97972
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

Valle-Inclánの『ボヘミアンの光』(翻訳と訳注)

(その2)

堀 内 研 二

Estudios Hispánicos 30 (2005) に発表した「Valle-Inclánの『ボヘミアンの光』(翻訳と訳注)(その1)」に引き続き、同作品の後半部分の翻訳および訳注をここで発表する。

ボヘミアンの光 エスペルペント

第八景

内務省の長官秘書室。葉巻タバコの匂い、劣悪な絵画、見せかけだけの野暮ったい華美さ。部屋はなかば執務室のような、なかば賭博場のサロンのような趣きを呈している。突然電話の鈴虫が官僚組織の膝元に放尿する⁹¹。ディエギート・ガルシーア、「法廷評論」のドン・ディエゴ・デ・コラル、一足飛びでかけ寄り、耳に受話器を当てる。

ディエギート もしもし、どちらさまで？
.....
 釈放するようにという命令はもう伝えましたよ。
.....
 どういたしまして！どういたしまして！
.....
 アル中ですよ！
.....
 ええ、彼の作品はよく知っています。
.....
 嘆かわしいことです！
.....
 それは無理です。ここにはそんな金ありませんから！

91 この表現はエスペルペントの特徴的な表現手法のひとつ、生物化animaciónである。生物化は事物を生き物扱いすることで、ユーモアをかもしだしたり、登場人物を相対的、間接的に矮小化する効果がある。

.....
そのように伝えましょう。メモしておきます。
.....

どういたしまして！どういたしまして！

マックス・エストレリャ、部屋の入口に現れる。ネクタイはよじれ、引っかき傷をつくり、青ざめてはいるものの、尊大で狂気じみた態度を見せる。うしろから、ズボンのボタンを掛けながら、取次係が現れる。

取次係 止まってください、あなた。
マックス 俺に手をかけるな。
取次係 無礼はやめて出ていってください。
マックス 長官⁹²に取り次いでくれ。
取次係 お目にはかかれませんか。
マックス ああ！お前さんのいうことはもつとだ⁹³。でも俺の声を聞くことはできよう。
取次係 お引きとりください。いまは会見の時間ではありません。
マックス 取り次いでくれ。
取次係 これは命令なんです……馬鹿なことをしてもむだですよ。
ディエギート フェルナンデス君、そのお方をお通ししなさい。
マックス やっと文明化した原住民に会えたようだな！
ディエギート マラ・エストレリャさん、ほんの少ししかお相手できませんのでご了承ください。あなたのことは「エル・ポブラール」紙の編集部から聞きました。あそこではみんながあなたのことを敬愛しております。あなたはいたるところで敬愛され、賞賛されています。ここでであろうとどこであろうとわたしはあなたのお役に立ちますよ。わたしのことをお忘れなく……信じられないでしょうが！……わたしはジャーナリズムの世界が懐かしい……わたしは何かしようと思ってます……以前からパンフレットというか屑の凝らない新聞、ちょうどシャンパンの泡やかんな屑の炎のような気軽な新聞を心の中であたためています。あなたを当てにしていますよ。さようなら、先生。このような不愉快な出来事がきっかけでお知り合いになれたなんて、なんとも残念なことです！
マックス そのことで抗議しにきたんだ。あんたがたはこの上なく卑劣な輩^{やから}

92 長官のモデルはValle-Inclánの友人で、ジャーナリストから政治家に転身し、教育相をつとめたJulio Burell (1859-1919) とされている。

93 盲人のマックスは直前の取次係のせりふNo está visible. を、わざと文字通りの意味（彼は目に見えない）にとってこのように答えている。

を警察に雇い入れているようだな！
ディエギート 色々なのがいますから、先生。
マックス 言い合うのはやめよう。俺は長官に話を聞いてもらい、同時に、
釈放してくれたことのお礼を述べたいんだ。
ディエギート 長官閣下は何もご存じではありません。
マックス 俺が話してやるよ。
ディエギート 閣下はいま執務中です。でも、行って参りましょう。
マックス 俺も一緒に行く。
ディエギート それはできません！
マックス 騒ぎたてるぞ！
ディエギート どうかしていますよ！
マックス 無視され、拒絶されることでどうかしてしまっただ。長官は俺
の友だち、華やかなりしころの友だちだ。俺のことなど知らないっ
ていう言葉を聞きたいんだ！パコ！パコ！
ディエギート わたしがお取り次ぎいたします。
マックス 自分でやる。パコ！俺だ、過去の亡霊だよ！

長官閣下、執務室のドアを開け、ワイシャツ姿で顔を覗かせる。ズボンの前開きは開いたままで、ベストのボタンもはめてない。紐でつるした鼻眼鏡が、ふたつのばかげた目のように、布袋腹の上で踊っている⁹⁴。

長官 この騒ぎは何だね、ディエギート？
ディエギート 閣下、わたしの手には負えなかったのです。
長官 で、その男は何者かね？
マックス 華やかなりし頃の友だちだよ！俺が誰かわからないだろうな、パ
コ！人生が俺をずいぶんと変えてしまったから！誰だかわからな
いだろう！マクシモ・エストレリャだよ！
長官 まさに！まさに！まさに！それで、目が見えないのか？
マックス ホメロスやペリサリオスと同じように⁹⁵。
長官 一時的に見えないだけ、と思うが……
マックス この目はもう一生見えない。ヴィーナスの贈物⁹⁶だよ。
長官 なんとということだ。それで、どうして今までわたしに会いにくる
ことを思いつかなかったのだ？新聞で君の名前を見かけることは

94 これも生物化animaciónの一例である。

95 原文はComo Homero y como Belisario. これはRubén DaríoがAlejandro Sawaの遺稿*Iluminaciones en la sombra*へ寄せた序文中に見られるVictor Hugoの詩句の再引用。ペリサリオス(505?-565)はビザンティン帝国の名将。ユスティニアヌス大帝につかえ、ヴァンダル族、東ゴート族、ペルシアとの戦闘を指揮。盲目となり、乞食をしてコンスタンティノープルへ放浪。

96 つまり、性病のこと。

- ほとんどないな。
- マックス 俺は世間から忘れ去られている！君は先見の明があったよ、俺たちを幸せに統治するために文学を捨てて。パコ、文学では食っていけない。文学は華やかだが、窮乏生活を強いる！
- 長官 全くもって文学にはしかるべき配慮がなされていない。今や値段のつくものに成り下がっている。マックス君、わたしは仕事を続けることにする。欲しいもののリストをこの若者に渡してくれ……来る時間が少し遅かったよ。
- マックス 俺はしかるべき時にきた。べつに何か欲しくきたわけじゃあないよ。俺は謝罪と処罰を求めてきたんだ。俺は目が見えず、詩人と呼ばれ、詩をつくり、みじめな暮らしをしている。君は俺のことを酔っ払いだと思っている。幸いなことにね！酔っ払いでなかったら、自分に一発撃ちこんでいたろうよ。パコ、君の刺客たちに俺に唾を吐きかけたりびんたを食らわしたりする権利はないぞ！俺はあの下司な連中の処罰を、女神ミネルヴァ⁹⁷への謝罪を求めてきたんだ！
- 長官 マックス君、わたしは何も知らないんだ。何があったのだね、ディエギート？
- ディエギート 通りでちょっとした騒動がありまして、集会は許可されてないのに。それで先生はすこし興奮なされて……
- マックス 俺は不当に逮捕され、異端審問のような拷問を受けたんだ。手首にそのあとがある。
- 長官 警官たちはどのような報告をしたのかね、ディエギート？
- ディエギート はっきり言って、たった今お伝えした通りのことです。
- マックス 嘘っぱちだ！俺はある警官の気まぐれによって逮捕されたんだ。俺はただギリシア語の四つの方言を知っているかと無邪気に訊いただけなのに。
- 長官 まさに質問のほうが気まぐれというべきだな。一介の警官にそのように高邁な人文学を求めるなんて。
- マックス 中尉だった。
- 長官 まるで陸軍大将であるかのように。君に落度は何もないよ！君は相変わらず無鉄砲な奴だね！君には年月が流れないようだな！ああ、君の相も変らぬユーモアが羨ましい！
- マックス 俺にとってはいつもが夜だよ！目が見えなくなって一年になる。俺が口述し、家内が筆記する、でもどうにもならない。
- 長官 奥さんはフランス人かい？

97 ローマ神話で、芸術・知恵・産業の女神。ギリシア神話のアテナに当たる。

- マックス 天国の聖女だが、アレが書くスペイン語ときたらまるで地獄の綴りだよ。俺は一字ずつ口述しなければならない。その間にアイデアが失せてしまう。頭痛の種だ！わが家にパンがあれば、目が見えなくても全然苦にならないのだが。めくらのほうが世の中のことがよくわかる、目は幻覚でもって人をたぶらかすからな。じゃあな、パコ！断っておくが、俺は何か頼みにきたんじゃないぞ。マックス・エストレーリャは哀れな疫病神ではない。
- 長官 ちょっと待て、帰るなよ、マクシモ。せっかく来てくれたんだから話をしよう。君はわたしの人生のある時期のすべてを蘇らせてくれる、おそらく最良の時をね。ずいぶんと昔のことだな！わたしたちは一緒に学んだ。君たちはレクエルド通りに住んでいた。妹がひとりいたよな。君の妹にわたしは恋をしていた。彼女のために詩をつくったつけ！
- マックス レクエルド通り
エレーナの窓辺
黒髪の乙女が
顔を出すのを見た！
レクエルド通り
学生たちのセレナーデ
彼女に掛けた
月のきざはし！
- 長官 すごい記憶力だな！感心するよ！君の妹はどうした？
- マックス 修道院に入った。
- 長官 それで、弟のアレックスは？
- マックス 死んだよ！
- 長官 で、他の者たちは？君の家は兄弟が多かったよな！
- マックス みんな死んでしまったと思う！
- 長官 君は変わってないな！……マックス、君のデリカシーを傷つけたくないが、この地位にある間は君に給料を出せるよ。
- マックス それはありがたいことで！
- 長官 受け入れてくれるかね？
- マックス 仕方ない！
- 長官 メモしてくれ、ディエギート。どこに住んでいるんだ、マックス？
- マックス 覚悟しろよ、君、長い宛名だからな。バスタルディーリョス通り二十三番地の二、内階段、屋根裏部屋B。注記。このラビュリントスで道案内の糸玉が必要でも、管理人のおかみに求めないこと、

咬みつかるから⁹⁸。

長官 まったく君のユーモア感覚が羨ましい！
マックス 世界は俺のもの、すべてが俺に微笑み、俺は悩みのない男だよ。
長官 羨ましい！
マックス パコ、馬鹿をいうなよ！
長官 マックス、毎月君の家に給料が届くからね。じゃあ、これで！抱擁しよう！
マックス 大袈裟すぎる、あまりセンチになるなよ。
長官 ごきげんよう、天才にして無法な友よ！
マックス 断っておくが、俺は尊厳に対する謝罪と、下劣な輩の処罰を求めてきたんだ。なのに、それがどちらも成し遂げられなかった。君は俺に金をくれ、俺はろくでなしだからそれを受け取る。この世におさらばする前に機密費とやりに触れるのも悪くないな。長官の庇護の手を勝ち得たってわけだ！

マクシモ・エストレリヤ、両腕を広げ、頭をもたげ、盲人らしい不動の姿勢で、悲劇的な目を静止したまま、亡霊のように前へ進む。グロテスクな舞台化粧をし、でっぷりした布袋腹の長官閣下は、フランスの安っぽいメロドラマにおける老喜劇役者のような身動きでそれに応じる。ふたりは抱擁する。離れるとき、長官のまぶたには涙がみられる。ボヘミアンの手を握りしめ、その手にいくばくかの紙幣をのせる。

長官 ごきげんよう！またな！この瞬間を決して忘れないからね。
マックス じゃあな、パコ！ふたりの哀れな女たちに代わってお礼を言うよ！

長官、呼び鈴を鳴らす。取次係が眠そうな様子で駆けつける。マクシモ・エストレリヤ、杖で手探りしながら部屋の奥のほうにまっすぐ進む。そこにはバルコニーがある。

長官 フェルナンデス、そのお方と一緒に行って、車に乗せてあげてくれ。
マックス きっと門のところで俺の犬が待っているはずだ。
取次係 あなたを待っているのは年配の人、待合室にいます。
マックス ドン・ラティーノ・デ・ヒスパリスだ、俺の犬みたいなものさ。

取次係、ボヘミアンの袖をつかむ。のろくさと彼を執務室から連れ出しながら、長官閣下の表情を横目でうかがう。それは一大感謝シーンにおいて性格俳優がみせる陳腐な表情である。

⁹⁸ クレタ王ミノスの娘アリアドネが、恋する英雄テセウスに迷宮ラビュリントスの道しるべとして糸玉を渡し、ミノタウロス退治を助けたというギリシア神話を暗示するとともに、当時のマドリードの女管理人たちの気難しさを皮肉っている。

- 長官 ディエギート君、残念ながらあの男は意志のたがが弛んでしまっている！かつては文彩、言葉、機知、すべてを手にしていただけだ。彼の話はポンチの炎のように色鮮やかで変化に富んでいた。
- ディエギート なんて尊大な態度！
- 長官 疑いもなく、彼は当時の仲間たちのなかで一番だった！
- ディエギート ほら、見てください。いま通りの真ん中で、アルコールの匂いをぶんぶんさせ、遣り手ババアたちにフランス語で挨拶していますから。
- 長官 二十年たった！ひと昔だ！そこに、思いがけなくもボヘミアン時代のあの亡霊がふたたび現れたのだ！わたしは詩作の楽しみを断念することで不幸を免れた。ディエギート、君はこれが何を意味するかわからないだろうな、詩人に生まれついてないから。
- ディエギート くわばら！くわばら！
- 長官 ああ、ディエギート、君は夢想とボヘミアン生活がどういうものか決してわからないだろうな！君は生まれながらの役人で、夢想の世界からの転向者でないから。このわたしはそうなのだよ！
- ディエギート 後悔しているんですか、ドン・フランシスコ？
- 長官 そうらしい。
- ディエギート 内務長官閣下はできるものなら詩人マラ・エストレリャに取って代わりたくてもお思いで？
- 長官 そら、ドン・ディエゴ・デル・コラル学士殿が裁判官の本性をあらわしたぞ！判事殿、しばし尋問は中断して、マクシモ・エストレリャに渡す金をどのように工面したらよいか考えてくだされ。
- ディエギート 機密費から捻出しましょう。
- 長官 なんて皮肉なことよ⁹⁹！

長官、安楽椅子に深々とからだを沈める。その前では暖炉が絨毯の上に揺れる明かりを放っている。彼は帯つき葉巻に火をつけ、新聞を持ってくるように言う。眼鏡をかけ、ざっと目を通したあと、それを顔にのせ、眠り込む。

第九景

曇った鏡がながく並ぶカフェ。大理石のテーブル。赤い寝椅子。正面奥にカウンター。その後には、さまざまなボトル類越しに上半身をのぞかせた金髪の小柄な老人。カフェにはピアノとバイオリンがある。人影と音楽はタバコの煙とアーク灯の青白い光の揺れのなかに漂っている。多くのものを映し出す鏡には、通俗小説風の興趣が満ちあふ

99 官憲の横暴に抗議し、謝罪と処罰を求めてやってきたマックスが、密告者への報酬や買収工作に用いられる内務省内の黒い金を受け取ることを指す。

れている。その奥では、不条理な幾何学でもって、カフェがその異様を呈している。音楽の下卑たリズム、鏡の奥の光、アーク灯の揺れる光がたらぬくタバコの煙、これらがその多様性をひとつのかたちにまとめている。見知らぬ男たち登場。彼らはあの三重のリズムのなかで突然変貌し、マラ・エストレリャとドン・ラティーノになる。

マックス ここはいずこかな？
ドン・ラティーノ カフェ・コロンですよ。
マックス ルベンがいるか見てくれ。いつも演奏者たちのまん前に陣取っている。
ドン・ラティーノ あそこで憂い顔のブタのようにしていますよ。
マックス そばに行こう、ラティーノ。俺が死んだら、詩の玉座はあの黒人の手に移る。
ドン・ラティーノ わたしに遺言執行人の役を押しつけないでくださいよ。
マックス 大詩人なんだ！
ドン・ラティーノ わたしにはわかりません。
マックス 君はマウラの床屋がお似合いだよ！

ふたりは椅子と大理石のあいだを縫って、ルベン・ダリーオがもの静かに腰をおろしている片隅に着く。彼らの出現に詩人は人生の悲哀を覚え、怒った子供のようなわがままな表情をして目を閉じ、グラスのアブサン酒を一口する。ようやく偶像のようなその仮面が、目の潤んだ笑みをたたえ生気を帯びる。盲人はローマ皇帝のような堂々とした態度でテーブルの前に立ち、腕を上げる。

マックス やあ、兄弟、年は下でも誉は高い！
ルベン すばらしい！ずいぶんと久し振りだな、マックス！何をしている？
マックス 何も！
ルベン すばらしい！ここは初めてかい？
マックス カフェは高くて贅沢だ。だからお迎えが来るまでのあいだ、俺はもっぱら居酒屋をつかっている。
ルベン マックス、人生を楽しもう。そしてできるだけ喪服の貴婦人¹⁰⁰のことは忘れよう。
マックス どうして？
ルベン 彼女の話はやめよう！
マックス 君は彼女を恐れているな。逆に俺は口説いている！ルベン、君の伝言を渡してくれたら三途の川のむこう岸に持って行ってやるよ！俺は君に最後の別れを言うためにここにきたんだ、名高きラクダ

100 死を指す。後に出てくる言葉、彼女も同じ意味。

- のドン・ラティーノ・デ・ヒスパリスに導かれて。君の詩を軽蔑している男だ、まるでアカデミー会員であるかのように！
- ドン・ラティーノ マックスさん、ばかなこと言わないでくださいよ！
- ルベン この方がドン・ラティーノ・デ・ヒスパリスで？
- ドン・ラティーノ 先生、わたしたちは古くからの知り合いですよ！ずいぶんと昔のことです！わたしたちは一緒に「ラ・リラ・イスパノアメリカーナ」誌でジャーナリズムの仕事をしていました。
- ルベン よく覚えてないよ、ラティーノさん。
- ドン・ラティーノ わたしは経理担当でした。パリでは俺お前の仲でしたよ、ルベン。
- ルベン 忘れてしまった。
- マックス 君は一度もパリに行ったことなどないじゃないか！
- ドン・ラティーノ マックスさん、もう一度言わせてもらいますが、ばかなこと言わないでくださいよ。腰をおろして、わたしたちに夕食をおごってください。ルベン、今日はこの大詩人、わたしたちの友人はエストレーリャ・レスブランデシエンテ、つまり輝ける星という名前なんですよ！
- ルベン すばらしい！マックス、ボヘミアンの生活はやめたほうがいい！
- ドン・ラティーノ ふとこが温かい！納税者たちから剥ぎとった紙幣を二枚もっているんですよ！
- マックス 今日の昼はマントを質入れせねばならなかったが、夜は君に夕食をおごる身分だ！琥珀色のシャンパンを注文しよう、ルベン！
- ルベン すばらしい！トゥールの聖マルティヌス¹⁰¹のように、君はわたしにマントを分け与えてくれる、夕食に変えて。すばらしい！
- ドン・ラティーノ ボーイ君、メニューを！フランスのワインを注文するのはちょっとやりすぎに思えるけど。明日のことを考えなければ、諸君！
- マックス その必要なし！
- ドン・ラティーノ その意見に賛成してもいいですよ、コーヒーとワインと葉巻と一緒に毒も食らうのならば。
- マックス しみったれのプチ・ブルめが！
- ドン・ラティーノ マックスさん、ひとつ取引といきましょう。わたしは小ビンのビールを飲むことにとどめておきますから、わたしの飲み代をお金で渡してくださいよ。
- ルベン 礼儀をわきまえたほうがいい、ラティーノさん。
- ドン・ラティーノ 小生は詩人ではありません。詩をつくるよりもずっと苦勞をして生計をたてているんです。
- ルベン わたしもまた天体の数学を学んでいるよ。
- ドン・ラティーノ それはお見それいたしました！そうなんです、小生は小説の分冊

101 Martin de Tours (316頃-397)。聖職者。ローマ軍の一兵士よりトゥールの司教となる。乞食にその軍用マントを与えるという慈愛の行為で有名。

- 売りにまで身をやつていますが、実はグノーシス主義¹⁰²と魔術の信奉者なんです。
- ルベン わたしもそうだ！
- ドン・ラティーノ 覚えてますよ、あなたが何か達成したということ。
- ルベン わたしは四大¹⁰³が意識だ¹⁰⁴ということを感得した。
- ドン・ラティーノ まさしく！まさしく！まさしく！意識と意志と力です！
- ルベン 水と地、火と風、これらは神々しき怪物だ。おそらく永遠だから神々しいのだ！
- マックス 虚無なる永遠。
- ドン・ラティーノ そして虚無の産物。四大は四人の福音史家に象徴される。天地創造は多元的であり、四元数でのみ始まる。だが数は三位一体から導き出される。それゆえ数は神聖なんです！
- マックス 黙れ、ピュタゴラス¹⁰⁴！いま言ったことはみんなブラバツキー婆さんとねんごろになって覚えたことじゃあないか。
- ドン・ラティーノ マックス、そのような冗談は許しがたいですよ！あなたはヴォルテール主義者¹⁰⁵でこの上なく不信心です！ブラバツキー夫人¹⁰⁶はすばらしい女性でした。冗談を言ってあのお方の思い出を汚さないでください。あの人のカルマの呪いを受けることになりますよ。それはこれまでもあったことです！
- ルベン 驚異をつくり出す！幸いなことに、われわれには見えないし理解もできない。それがわかったら、人生は驚きに満ちたものとなるだろう。
- マックス 君は彼女の信奉者なのかね、ルベン？
- ルベン そうだよ！
- マックス 神を信じるのか？
- ルベン それにキリストも！
- マックス 地獄の業火もか？
- ルベン 天上の音楽はさらにもっと信じている！
- マックス 君は偽善者だ、ルベン！

102 紀元1～4世紀、ローマ帝国周辺に興った宗教思想。徹底した霊肉二元論に立ち、人間は自分が神であることを認識することによって物質的桎梏から救済されると説く。キリスト教会から異端とされた。

103 古代において万物を構成すると考えられていた四つの基本要素。地、水、火、風。

104 前6世紀頃のギリシアの哲学者、数学者、宗教家。南イタリアでオカルト教団をつくり、靈魂の不滅、輪廻、死後の応報を説く。また、数を万物の根本物質と考え、万物は数の関係に従って秩序あるコスモスをつくるとした。

105 ここでは懐疑論者、無神論者の意。

106 Helena Petrovna Blavatsky (1831-1891)。ロシア生まれの神智論者。何度かインドを旅行するなかで密教を知り、以後、ヨーロッパや新大陸で神智学の普及を行う。著書に『ペールをとったイシス』(1877)がある。註76参照。

Valle-Inclánの『ボヘミアンの光』(翻訳と訳注)(その2)

ルベン 自分に正直なだけでよ！
マックス ポーズじゃないのか？
ルベン 違う！
マックス 俺にとっては、臨終のしかめ面のあとには何も無い。何かあったら、戻ってきて教えてやるよ。
ルベン 言うな、マックス、人間の証しを壊してはならない！
マックス ルベン、この晩餐のこと覚えていてくれ。さあ、ワインに君の詩のバラを混ぜよう。朗唱してくれ。

ルベン、身震いして黙想。恐怖と神秘を想起させる、偶像のような表情。マックス・エストレーリャ、すこし大げさな仕草で彼に手を伸ばす。ドン・ラティーノ、グラスにワインを注ぐ。ルベン、アステカの偶像のようなその顔に深い茫洋とした悲しみを刻み、黙想から醒める。

ルベン 「コンポステラ巡礼」を覚えているか見てみよう……最近つくった詩だ。
マックス 発表されてるのか？もしそうなら読んでいるはずだよ。でも君が朗唱したら別物になるからな。
ルベン たぶん覚えてないだろうよ。

隣のテーブルで何か書きものをしている若者がおそくおそくルベンのほうに身を乗り出す。目の前で本を開き、原稿を山積みをしているからおそらく翻訳をしているのであろう。

若者 先生、あなたが思い出せないところは、ぼくが教えてあげられると思います。
ルベン すばらしい！
マックス どこで発表されているのかね？
若者 原稿で読んだんです。生まれる前に死んでしまったある雑誌に発表されるはずだったんです。
マックス それはパコ・ピリャエスペサ¹⁰⁷の雑誌じゃないかね？
若者 ぼくはあの人の秘書でした。
ドン・ラティーノ すごいポストだな。
マックス 何も羨ましがることないよ、ラティーノ。
若者 覚えていますか、先生？

107 Francisco Villaespesa (1877-1936)。アルメリーア生まれ。Valle-Inclánと同世代のモデルニスモの詩人、劇作家。短命に終わる雑誌の発行を何度かおこなう。主な著書に詩劇『真珠の王城』(1911)、『ドニャ・マリア・デ・パディーリャ』(1913)がある。

(堀内)

ルベン、聖職者のような表情で頷く。それから唇をグラスで湿らせたあと、眠そうな声で、ゆっくりと抑揚をつけて朗唱する。SとZの発音を区別しようという努力がうかがわれる。

ルベン 旅は終わりに近づいていた。
うす暗い扉のかけで
わたしたちは固くなったパンを
ブラドミン侯爵¹⁰⁸と分かち合った!!!

若者 それは終わりの箇所ですよ、先生。

ルベン 超老齢のわれらが友のために乾杯しよう。

マックス 世間から身を隠してしまわれた！

ルベン ご自分の村で死出の旅の準備をしておられる。あの方のお別れの
手紙がこの詩を書ききっかけになった。すばらしき罪人^{つみびと}のために
乾杯しよう！

マックス 乾杯しよう！

マックス、グラスを上げ、アプサン酒の香りを味わいながら、ため息をつき、遠いパリの空を思い出す。ピアノとバイオリンがオペレッタの曲を演奏し始める。カフェの客たちはスプーンでグラスを叩き拍子をとる。乾杯のあと、三人の漂泊の民は口々にフランス語で話す。神々しく致命的な祝宴の光を思い出し、投射する。パリ！キャバレー！熱き夢！そしてこれらの言葉に合わせて、パパ・ヴェルレーヌ¹⁰⁹がびっこをひいて行進する。

第十景

庭園のある遊歩道。はるか遠くまで晴れわたった空。煌々と照る月。騎馬警官隊のパトロール。光輝く自動車が静かに走り去る。木立の茂みの秘密めいた暗がりや、若い街娯や厚化粧の老婆たちが徘徊している。遊歩道の椅子に分かれてすわり、まどろむ数人の人影。マックス・エストレリヤとドン・ラティノー、遊歩道の暗がりのなかを歩く。ライラックの春めいた香りが夜の湿気に芳香を添えている。

厚化粧の老婆	ねえ、もし！お兄さんたち！……ちょっとこっちへこない？
ドン・ラティーノ	あんたが入れ歯をはめたらな。
厚化粧の老婆	タバコ一本くれないんだね！

108 Valle-Inclánのモデルニスモ期の代表的な小説*Sonatas*『四季のソナタ』(1902-05) 四部作の主人公。

109 フランスの象徴派の詩人Paul Verlaine (1844-1896) のこと。Sawaの友人でもあったヴェルレーヌはモデルニスモの若い詩人たちに大きな影響を与え、彼らのあいだでpapa Verlaineと呼ばれていた。

ドン・ラティーノ 「スペイン通信」をやるから、知識を身につけるがいい。マウラの手紙が載っている。
厚化粧の老婆 あんなやつ、毒入りの腸詰モルシーリャを食らうがいい。
ドン・ラティーノ それはユダヤ教で禁じられてるよ¹¹⁰。
厚化粧の老婆 ねえ、口達者なお人！ちょっと待って、若い相棒を呼ぶから。ルナーレス！ルナーレス！

ラ・ルナーレス姿を現す。白いストッキング、エプロン、スカーフ、ズック靴の若い街娼。下品な笑みを浮かべ、小さな庭園の暗がりのなかで立ち止まる。

ラ・ルナーレス あら、ずいぶんといなせなお兄さんたち！今夜この通りからあたいを連れ出してくれるわね。
厚化粧の老婆 家の中で寝させてくれる。
ラ・ルナーレス 銅貨を一枚おくれよ、そうしたら一ペセタになりベッドに入れる。
厚化粧の老婆 しみったれ、タバコ一本くれない！
マックス そら、葉巻をやる。
厚化粧の老婆 そんな冗談言って！
ラ・ルナーレス もらっておきなさいよ、ばかね。
厚化粧の老婆 もちろんいただくよ！これは上物だ！
ラ・ルナーレス あたいにも一口吸わして。
厚化粧の老婆 これはとっておくんだ。
ラ・ルナーレス ポルトガル王のためにね。
厚化粧の老婆 はずれ！衛生局の人にあげるためだよ！
ラ・ルナーレス で、夢想家のお兄さんたち、これからどんちゃん騒ぎしない？

ふたりの売春婦は遊歩道の暗がりの下、次第に卑猥で人目をはばかる様子を見せる。厚化粧の老婆はドン・ラティーノ・デ・ヒスパリスのかたわらにいく。ラ・ルナーレスはマラ・エストレリャのかたわらに。

ラ・ルナーレス ほら見て、あたい清潔な下着つけてるから！
マックス 俺はめくらだよ。
ラ・ルナーレス すこしは見えるでしょう！
マックス 何も！
ラ・ルナーレス あたいをさわって。固くて締っているから。
マックス 大理石だな！

110 morcillaはブタの血にタマネギ、香辛料などを加えた黒いソーセージで、毒入りにして野犬を殺すのにも用いられた。ユダヤ人は戒律によってブタを食することを禁じられているが、註55において記したように、Antonio MauraにはMallorcaの改宗ユダヤ人の子孫だという風評があった。

小娘、猥らな笑みを浮かべながら、詩人の手を取り、自分の肩の上を這わせ、乳房に押しつける。汚らしい老婆は白粉の仮面の下、歯の抜けた口を見せ、巧妙にドン・ラティーノの気をそそる。

厚化粧の老婆 色男、一緒においでよ、あんたの相棒はもうルナーレスとよろしくやってるから。心配はいらない。おいでよ！おまわりがきたら、葉巻を渡して追っ払おう。

亡霊のごとき白粉女、微笑みながら男を連れていく。耳打ち話。ふたりは庭園の木立の中に消える。アルミダの園¹¹¹のグロテスクなパロディー。マラ・エストレリヤともうひとりの街娼は遊歩道の端に残される。

ラ・ルナーレス あたいのおっぱいをさわって……恥ずかしがることないわよ……
あんたは詩人なんだから！
マックス どうしてわかったのだ？
ラ・ルナーレス そのナザレ^{びと}人のような長髪で。違う？
マックス 違わない。
ラ・ルナーレス あたいの身の上話を聞きたいと思ったら、とびっきりの物語が見
つかるよ。ねえ、言って、あたいってどう？
マックス 妖精^{ニンフ}だ！
ラ・ルナーレス 気のきいた言い方だね。あんたの連れはもうコティリョーナと話
をつけたよ。おいで。手を引いてあげるよ。もっと暗い場所へ行
こう。見ていてごらん、発情させてあげるから。
マックス 俺をベンチに連れて行ってくれ、あのヒスパリスのブタ野郎を待
つために。
ラ・ルナーレス 何のことかわからないよ。
マックス ヒスパリスとはセビーリヤのこと。
ラ・ルナーレス それはジブシー語だね。あたいはチャンペリ¹¹²生まれよ。
マックス 年はいくつだね？
ラ・ルナーレス いくつかわからないよ。
マックス 夜はいつもここを仕事場にしているのかい？
ラ・ルナーレス 大抵はね。
マックス まっとうに暮らしているわけだ！
ラ・ルナーレス あんたにはわからない、あたいがどんなに苦勞しているか。あた
いは自分のしていることよく考えてるよ。コティリョーナはあた

111 アルミダはイタリアの詩人Torquato Tasso (1544-95) の大叙事詩『エルサレム解放』に出てくる魅惑的な妖女。十字軍の勇士リナルドを誘惑し、その魔法の園にひきとどめる。

112 Chamberíはマドリッド市街北部の下町地区。

- いのある家に連れて行く話をした。ある瀟洒な家にね! あたいは
行きたくなかった……ただ寝るためだけにあたいは寝ない……あ
そこはあたいの心を奪ってくれる人のためにとってあるんだ。あ
んたどうしてそうしてくれないんだい?
- マックス 俺は一文無しの詩人なんだよ。
- ラ・ルナーレス あんた、もしかしてホセリート¹¹³の歌をつくった人じゃあない?
- マックス その通り!
- ラ・ルナーレス 本当に?
- マックス 本当だよ。
- ラ・ルナーレス じゃあ歌ってよ。
- マックス 覚えてない。
- ラ・ルナーレス あんたのそのおつむから引き出したものじゃあないからよ。嘘で
なく、あんたのつくった歌は何?
- マックス エスパルテロ¹¹⁴の歌だ。
- ラ・ルナーレス それで覚えてる?
- マックス フラメンコ風に歌えるよ。
- ラ・ルナーレス できっこないわ!
- マックス ギターがあればなあ!
- ラ・ルナーレス 弾けるの?
- マックス 俺はだてにめくらじゃあないよ。
- ラ・ルナーレス あんたのこと、ますます気に入ってきたわ!
- マックス 金はない。
- ラ・ルナーレス ベッド代を払ってくれたらそれでおしまい。満足して、チューロ付き
のコーヒーをおごってくれる気になっても、あたいは拒まないよ。

マクシモ・エストレリヤ、盲人らしい手つきで、彼女の卵形の顔、喉、両の肩に
手を這わす。街娼はくすぐったさに艶かしい笑い声をたてる。髻から小型のジブシー
櫛を抜き、それで前髪をとかし、笑い声を強めながら体の力を抜く。

- ラ・ルナーレス あたいがどんなだか知りたい? あたいはすごく色黒ですごいブス
なの!
- マックス そうは見えない! 十五歳くらいかな。
- ラ・ルナーレス そのくらいよ。メンスがあってから三年になるわ。そんなこともうどう
でもいいから、行こうよ。この近くにすごくこざっぱりした家があるの。

113 有名な闘牛士であったJosé Gómez Ortega (1895-1920) のこと。Rafael Gómez Ortega *el Gallo* の弟で、*Gallito*とか*Joselito*と呼ばれていた。

114 19世紀の有名な闘牛士Manuel García Cuesta (1865-1894) のこと。*el Espartero*というあだ名を持っていた。闘牛場で牛の角に刺されて死んだ。

(堀 内)

マックス そしたら約束を果たしてくれるかい？
ラ・ルナーレス どんな？あそこを舐めさせてあげるっていうこと？そんな気があ
 るようには思えないけど！なんていう手だこと！もうあたいの顔
 をさわるのはやめて。体をさわってよ。
マックス あんたは黒髪かね？
ラ・ルナーレス その通りよ！
マックス ^{ナルド}甘松の香りがする。
ラ・ルナーレス その花を売っていたからよ。
マックス 目はどんな風だね？
ラ・ルナーレス 当ててごらんよ。
マックス 緑色？
ラ・ルナーレス パストーラ・インペリオ¹¹⁵と同じ。あたいはすべてがジブシー女
 みみたいだよ。

暗がりのなかでドン・ラティーノの葉巻の光と喘息もちの咳。遠くのよく響くアスファルトの上で、パトロールする騎馬警官隊の馬蹄の音がリズムカルに響く。自動車のヘッドライト。夜警のカンテラ。鉄格子の側柱。人目をはばかる様子の人影。別の逍遥学派の老婆¹¹⁶の白粉をぬりたくった顔。様々な人影。

第十一景

マドリードのハプスブルク王朝風のある通り。修道院の壁。貴族の屋敷。酒場の明かり。歩道には悲嘆に暮れる住民の集まり。胸をはだけたしわがれ声の女が、死んだ子どもを腕に抱いている。その子のこめかみには銃弾の貫通した穴。マックス・エストレーリャとドン・ラティーノ、立ち止まる。

マックス ここもガラスの破片が散らばっているが。
ドン・ラティーノ すごい乱闘があったんですよ！
マックス ろくでなし！……どいつもこいつも！……もっとも一番のろくで
 なしは俺たち詩人だが！
ドン・ラティーノ 食うや食わずの生活をしている！
子どもを抱いた母親 おかま野郎、卑怯者たちめ！地獄の業火にその黒い腸^{はらわた}を焼かれ
 るがいい！おかま野郎、卑怯者たちめが！
マックス どうしたんだ、ラティーノ？誰が泣いている？誰があんなにも怒

115 Pastora Imperio は20世紀前半に活躍した有名なジブシーのダンサー。闘牛士Rafael el Galloの妻。1915年、マドリードでManuel de Fallaのバレエ音楽El amor brujo『恋は魔術師』の公演で踊る。

116 逍遥学派はアリストテレス学派のことで、彼が学園の歩廊を逍遥しながら高弟たちと哲学を論じたことからこのように呼ばれる。ここでは夜の街を徘徊し客を求める年老いた街娼を指す。

り狂って叫んでいる？

ドン・ラティーノ 野菜売りのおかみ、腕に死んだ子どもを抱いてます。

マックス ああ悲劇的な声を聞くとゾッとする！

子どもを抱いた母親 人殺し！ 幼児殺し！

質屋 気が動転していて、何を言っているかわからないのさ。

警官 ここの次第は警察も把握している。

酒場の主人 治安回復のためには仕方がない不幸だ。

質屋 アナーキストの連中に店のショーウィンドーを壊されてしまった。

女管理人 どうして早くシャッターを下ろさなかったんですか？

質屋 店の外で騒ぎに巻き込まれてしまったんだ。私有財産の損害賠償を忘れないでいただきたいよ。

酒場の主人 公共の施設から物を盗む国民は愛国心のない国民と言える。

子どもを抱いた母親 いとしいわが子を殺した冷血漢どもめ！

れんが職人 国民は飢えているんだ。

質屋 それでいてすごく傲慢だ。

子どもを抱いた母親 おかま野郎、卑怯者たちめ！

老婆 もうそのくらいにおしよ、ロムアルダ！

子どもを抱いた母親 このあたしも殺すがいい、この五月のパラのように！

屑屋 罪もないのに殺されたんだ！ よく考えてもらわなければ！

酒場の主人 あんたたちときたらいつも外出するんだから、警報が鳴らなかつたと言って。

退役軍人 わしは聞いたよ。

子どもを抱いた母親 嘘っぱちだ！

退役軍人 誓ってもいい。

質屋 悲しみのあまり気が動転しているんだよ、ロムアルダ！

子どもを抱いた母親 人殺し！ あんたらも人殺し同然だ！

退役軍人 当局の原則は苛酷なものだよ。

れんが職人 貧乏人にはね。俺たちを搾取する商人を守るために躍起になっている。

酒場の主人 商人は税を納めている、このことを忘れてもらっては困るよ。

質屋 まっとうな商人は誰も搾取したりはしないよ。

女管理人 悪い癖であたしらはすぐ文句を言うからね！

れんが職人 プロレタリアの生活など政府にとって何の意味もないんだ。

マックス ラティーノ、俺をこの諸地獄¹¹⁷から連れ出してくれ。

117 ダンテの『神曲』の第一部『地獄編』で、ダンテはウエルギリウスに案内され地獄の世界を巡歴する。『神曲』における地獄は同心円のように配置されている。MaxがDon Latinoを手引きとして夜のマドリードのさまざまな場所を徘徊するという構成をもつ本戯曲は、ダンテの『地獄編』のパロディーになっている。

パンパンという銃声が聞こえてくる。集団はうろたえ、びくついて身構える。女のしわがれた叫び声上がる。彼女は一斉射撃の音に、腕の中の死んだ子どもをきつく抱き締める。

子どもを抱いた母親 邪悪な銃よ、その弾丸でこのあたしも殺してくれ！

マックス あの声の聞こえと胸が張り裂けそう。

子どもを抱いた母親 こんなにも冷たくなって、甘松ナルドのようなお口が！

マックス あんな悲痛な怒りの声はこれまで聞いたことがない！

ドン・ラティーノ ちょっとオーバーなんですよ。

マックス 何を言うか、このばか野郎！

夜警のカンテラ、槍、とんがり頭巾が、木靴の音を響かせ走って歩道を下ってくる¹¹⁸。

質屋 何があったんだ、夜警さん？

夜警 囚人¹¹⁹が逃亡を図ったんですよ。

マックス ラティーノ、俺はもう叫ぶこともできない……怒りのあまり死にそうだ！……イラクサを嚙んでいるような気分だ。いま死んだ男は自分の最期を知っていた……それには怯えていなかったが、拷問を恐れていた……黒い伝説は、この下劣な日々にあってはスペイン史そのものだ。われらの生はダンテの諸地獄めぐり。怒りと恥ずかしさ。この悲劇の茶番になんら関わらなかったことは満足だが、俺は腹がへって死にそう。ろくでなしの老いぼれ、この者たちの話を聞いたかね？君は彼らと同類だ。いや、彼らよりもっと悪い、なぜなら君は一文無しで、連載小説という粗悪な文学を広めているから。ラティーノ、つまらない冒険小説を売り歩く下劣なやつよ、俺をあの水道橋¹²⁰に連れて行ってくれ。一緒に宙を飛んで生まれ変わろう。

ドン・ラティーノ マックス、ばかなことは言わないでくださいよ！

第十二景

坂になった路地裏。正面奥にはバロック様式の教会。黒い鐘の上には明るい月。ドン・ラティーノとマックス・エストレーリャ、戸口のかげに腰を下ろし哲学している。彼らの対話中にだんだんと空が白み始める。教会の軒で数羽の小鳥がさえずっている。

118 この表現はエスペルペントの特徴的な表現手法のひとつで、擬物化cosificaciónと呼ばれる。登場人物を人間以下の事物のカテゴリーにまで低劣化するとともに、ユーモアをかもしたりする。

119 第六景に登場する囚人のカタルーニャ人労働者Mateoを暗示。

120 セゴビアの水道橋のこと。この観光名所は同時にその高さゆえ自殺の名所でもあった。

遠くの空に曙光がきざす。夜警たちはすでに立ち去るが、まだ戸口は閉ざされたままである。女管理人たちが目を醒ます。

マックス もう夜明けのはずだが。
 ドン・ラティーノ その通りです。
 マックス なんという寒さだ！
 ドン・ラティーノ 少し歩きましょうよ。
 マックス 手伝ってくれ、ひとりでは立てないから。体がかじかんでいる！
 ドン・ラティーノ マントを質に入れたりするからですよ。
 マックス 君の外套を貸してくれ、ラティーノ。
 ドン・ラティーノ マックス、虫のいいこと言わないでくださいよ。
 マックス 俺を立たせてくれ。
 ドン・ラティーノ カルロス党员よ、立ちあがれ！
 マックス 立ってられない！
 ドン・ラティーノ 横着なんですから！
 マックス ばか野郎！
 ドン・ラティーノ 本当に顔色がちょっとおかしいですよ！
 マックス グロテスクな登場人物、ドン・ラティーノ・デ・ヒスパリス、小説で君の名を不朽にしてやる！
 ドン・ラティーノ マックス、悲劇で。
 マックス われわれの悲劇は悲劇ではない。
 ドン・ラティーノ でも、何かではあるでしょうよ！
 マックス エスペルペント¹²¹だ。
 ドン・ラティーノ 口をゆがめないうで、マックス。
 マックス 体がかじかんでいる！
 ドン・ラティーノ 立って。歩きましょう。
 マックス 無理だ。
 ドン・ラティーノ ふざけるのはやめて。歩きましょう。
 マックス 息を吹きかけてくれ。どこにいるんだ、ラティーノ？
 ドン・ラティーノ そばにいますよ。
 マックス 君が牛に変わってしまったので、誰だかわからなかった。息を吹きかけてくれ、ベツレヘムの^{うまや}厩の令名高き牛よ。啼け、ラティーノ！君は先導牛だから、君が啼けば聖牛アピス^{ウマヤ}がくるだろう。そうしたら、あいつを使って闘牛をしよう。
 ドン・ラティーノ 驚かさないうでくださいよ。もうそんな冗談はやめて。

121 この用語は本戯曲のサブタイトルになっているが、esperpentoという語は、la Real Academia Española のDiccionario de la Lengua Españolaによれば、<1) 醜悪さ、だらしなさ、または風体の悪さの著しい人物や事物 2) 的はずれ、ばかげたこと>を意味する。

- マックス ウルトライスタ¹²²たちは道化師だ。エスペルペントの手法はゴヤがつくり出した。古典作品の主人公たちがガト横丁¹²³に散歩に出かけたのさ。
- ドン・ラティーノ あなたは完全に酔っ払ってますよ！
- マックス 凹面鏡に映った古典の主人公たちがエスペルペントをつくり出さなんだ。スペインの生の悲劇的感情は体系的にデフォルメされた美学でもってのみ表すことができるんだ。
- ドン・ラティーノ まさか！あなたは間違った考えに染まっているんですよ！
- マックス スペインはヨーロッパ文明のグロテスクなデフォルメだ。
- ドン・ラティーノ そうかも！わたしの意見は差し控えさせていただきますが。
- マックス 凹面鏡で一番美しい映像はばかげたもの。
- ドン・ラティーノ 同感です！でも、わたしはガト通りの鏡に自分の姿を映すのが面白いですが。
- マックス 俺だってそうだよ。デフォルメは完璧な数学に基づくデフォルメではなくなる。俺の今の美学は、凹面鏡の数学でもって古典の規範を変えることなんだ。
- ドン・ラティーノ それで、その鏡はどこにあるんですか？
- マックス グラスの底に。
- ドン・ラティーノ あなたは天才的だ！ 脱帽します！
- マックス ラティーノ君、俺たちの顔とスペインの悲惨な生活のすべてをデフォルメする例の鏡でもって、表現をデフォルメしようじゃあないか。
- ドン・ラティーノ ガト横丁に行ってみましょうよ。
- マックス どの豪邸¹²⁴が空き家になっているか見てみよう。壁にもたせかけてくれ。俺を揺すぶってくれ！
- ドン・ラティーノ 口をゆがめないで。
- マックス 神経のせいだよ。自分でもわけがわからないんだ。
- ドン・ラティーノ からかわないでください！
- マックス 君の外套を貸してくれ。
- ドン・ラティーノ 寒風でわたしも体がかじかんでるんです！
- マックス 手に感覚がなく、爪が痛い。俺は重病だ！
- ドン・ラティーノ あなたはわたしを動揺させようとしているんだ、後でからかうために。
- マックス ばか言うな。家まで連れて行って、安らかに死なせてくれ。
- ドン・ラティーノ 本当のところ、わたしたちの地区の人たちは朝が遅いんですよ。

122 ウルトライスモUltraísmoは1919年、スペインに起こった前衛的な文学運動で、後に中南米にも広まる。メタファーの多用や装飾の排除をとおして純粹詩を追求する。代表的なウルトライスタにはRafael Cansinos-Assens, Guillermo de Torre, Jorge Luis Borgesらがいる。

123 ソル広場の裏手にある Álvarez Gato 通りのこと。当時、この通りに面したある店の前に凹面鏡がおいてあり通行人の関心をひいていた。

124 ここでは屋根裏部屋の意。注57を参照のこと。

マックス 呼んでみてくれ。

ドン・ラティーノ・デ・ヒスパリス、後ろ向きになり、ドアを蹴り始める。蹴る音が薄明るい路地裏にこだまする。その挑発に応じるかのように、教会の時計が風見鶏のしたで五つ鐘を鳴らす。

マックス ラティーノ！

ドン・ラティーノ 何ですか？口をゆがめないで！

マックス コレットが起きていてくれたらいいが！……立たせてくれ、呼んでみるから。

ドン・ラティーノ あの屋根裏部屋まで声は届きませんよ。

マックス コレット！もう生きるのはうんざりだ！

ドン・ラティーノ 友だちを忘れないでくださいよ。

マックス ラティーノ、視力が戻ったみたいだ。どうしてこの葬式にきたんだ？あの華麗な埋葬はパリのものだ！これはヴィクトル・ユゴーの葬式だよ！聞いてるか、ラティーノ、でもどうして俺たちが埋葬を仕切っているんだ？

ドン・ラティーノ 気を確かに、マックス。

マックス どうして見えるのかわからない。

ドン・ラティーノ 知ってるでしょう、前にも同じように幻覚を見たことを。

マックス 誰を埋葬しているんだ、ラティーノ？

ドン・ラティーノ それは秘密ですから知ろうとしてはいけません。

マックス 霊柩車に太陽が当たって輝いている！

ドン・ラティーノ マックス、あなたの言っていることすべてが冗談でなければ、それには神智学的な意味があることになりますよ……わたしが仕切る埋葬ではわたしが死者でなくてはならない……でもあの花輪の数からして、死者はあなただと思われます。

マックス 君を満足させてあげよう。前兆に対する不安をぬぐい去ってあげるために、俺はここに寝て死を待つことにする。俺は死ぬ！そう言えばカタルーニャのバリアが言っていたな、明日あの御用新聞は何て書くだらうかって。

マクシモ・エストレリャ、自分の家のある建物の戸口に寝そべる。路地裏を一匹の野良犬がジグザグに走って横切る。道の真ん中で脚をあげて小便する。詩人のような目やにだらけの目で、最後の星が瞬く青い空を見上げる¹²⁵。

125 この表現はエスベルペントの特徴的な表現手法のひとつである擬人化personificaciónである。先に指摘した生物化animaciónの場合と同じように、ユーモアをかもしだしたり、登場人物を相対的、間接的に矮小化する効果がある。

(堀 内)

マックス ラティーノ、弔いのお祈りを唱えてくれ。
ドン・ラティーノ そんな縁起でもない悪ふざけをまだ続ける気なら、あなたをおいで行きますよ。
マックス 永遠に去るのはこの俺だよ。
ドン・ラティーノ 起きてください、マックス。歩きましょう。
マックス 俺は死んでいる。
ドン・ラティーノ 起きてください。口をゆがめないで、まったく！マックス！マックス！返事してください、しょうがない人だなあ！
マックス 死者は口をきかない。
ドン・ラティーノ それじゃあもう、おいて行きますからね。
マックス お休み！

ドン・ラティーノ・デ・ヒスパリス、かじかんだ指に息を吹きかけ、泥のはねだらけのむさくるしい外套をまとった背を丸め、数歩あるく。咳をし、ぶつぶつ不平を言いながらマックス・エストレーリヤのそばに戻る。耳もとに話しかけ、彼を起こそうとする。

ドン・ラティーノ マックス、あなたは完全に酔っ払っている、だから財布を持ったままにしておくのは犯罪に等しい、盗まれるからね。マックス、あなたの財布を持っていけますよ、明日渡しますから。

ようやく戸口の背後から、隣人の女の蓮っ葉な声があがる。玄関先に足音が響く。ドン・ラティーノは路地裏に姿をかくす。

隣人の女の声 フローラさん！フローラさん！まだ寢床から離れられないんだね。
女管理人の声 誰だね？いまマッチ箱を見つけるから待っておくれよ。
隣人の女 フローラさん！
女管理人 いま行くよ！誰だね？
隣人の女 まったく寝坊ス^{ねぼ}ケなんだから！誰かって？ラ・クカだよ、洗濯場に出かけるんだ！
女管理人 まったくもう、点きの悪いマッチだねえ！もう時間かね？
隣人の女 時間だよ、もう過ぎかけてる！

サンダルをはいた女のけだるそうな足音が聞こえる。女たちの会話はつついている。掛け金のきしる音がし、戸口にふたりの女が姿をみせる。ひとりとは白髪まじりで、元気がよく、グレイハウンドのように痩せていて、腰に洗濯物の入った袋を抱えている。もうひとは中年太りで、赤いスカート、肩にはむさくるしいショール、乱れた髪、サンダル履き。扉が開くと、ボヘミアンの体がすべり、敷居の上に倒れる。

隣人の女 これはたまげた、男のひとが死んでいる！
女管理人 詩人のマックスさんだ、酔っ払っている。
隣人の女 ロウのような顔色をしてるよ！
女管理人 クカ、お願いだから、ここでちょっと番をしていておくれよ、あ
 たしがマダム・コレットに知らせてくるから。

女管理人、サンダル音を立てながら階段を上る。彼女の悪たれ口が聞こえてくる。ひとりになったラ・クカは、おそるおそるボヘミアンの手に触れ、そのあと身をかがめ、土気色の額の下のなかば開いた目をのぞき込む。

隣人の女 ああ神さま！これは酔っ払ってなんかいるんじゃない！ほんとうに死んでいる！フローラさん！フローラさん！あたしゃぐずぐずしてられないんだ！もう半日がすっ飛ばしてしまったよ！フローラさん、これは世間へのいい戒めだよ！まさしく死んでいる！

第十三景

屋根裏部屋での通夜。髪が乱れ、憔悴した様子のマダム・コレットとクラウディニータ、死者のそばで泣いている。死者はすでにシーツにくるまれ、狭い^{ひつぎ}柩に寝かされ、四本のろうそくにかこまれている。柩の板を突き破ったきらめく釘が、死者の無防備なこめかみの上でその先を尖らせている。柩の外側は喪のためにタールで黒く塗られ、内側は色も塗らず松材が生地のままで、中には黄ばんだ汚らしい敷物がある。柩は部屋の隅から隅までいっぱい占め、床の敷石の上に安置されている。そのかたわらで泣いているふたりの女の交差した手にはろうそくの光があたっている。壁にもたれかかるドリオ・デ・ガデックスとクラリニートとペレスは、横一列に並んだ三つの陰気なあやつり人形¹²⁶。突然、階段の呼び鈴が喪の悲しみに割り込み、けたたましい声で鳴く¹²⁷。

ドリオ・デ・ガデックス 四時に葬儀屋がくることになっている。
クラリニート まだそんな時間じゃあないでしょう。
ドリオ・デ・ガデックス 時計をお持ちでは、マダム・コレット？
マダム・コレット あの人をまだ連れていかないで！まだ連れていかないで！
ペレス 葬儀屋のはずがないよ。
ドリオ・デ・ガデックス 誰も時計を持ってない！ぼくたちはみんな大物っていうことだな！

126 これもエスベルベントの特徴的な表現手法のひとつで、人形化muñequizaciónと呼ばれる。登場人物を人間以下のカテゴリーにまでデフォルメし低劣化する。

127 これは生物化animaciónである。

クラウディニータ、くたびれた足取りで、つまずきながらドアを開けに出る。人声がし、ドン・ラティーノ・デ・ヒスパリスの咳が聞こえる。昔からよくみられるタバコと焼酎が原因の咳。

ドン・ラティーノ 天才が亡くなった！泣くな、お嬢ちゃん！亡くなったが、亡くなってないんだ！……天才は不滅だから！……元気を出して、クラウディニータ、あんたはスペイン第一の詩人の娘なんだから！ヴィクトル・ユゴーの娘だと知ることが、どうかあんたの慰めとなるように！名高き孤児よ！抱きしめさせておくれ！

クラウディニータ 酔っ払っているわね！

ドン・ラティーノ そう見える。確かにそう見える。でも、悲しみのせいだよ！

クラウディニータ 酒のおいがぶんぷんしてるわ！

ドン・ラティーノ 悲しみだ！悲しみのせいだよ！ドイツ人が科学的に実証している！

ドン・ラティーノ、ドアのところでよろめく。肩にかけた鞆には画報を入れたファイル、両足のあいだには尻尾と耳のない小犬。眼鏡を額にのせ、垢じみたハンカチで酔いの回った目をぬぐう。

クラウディニータ 酔っ払ってやってきたわ。

ドリオ・デ・ガデックス 葬式用に。いつも礼儀正しい人だ！

ドン・ラティーノ マックス、わが兄弟よ、年は下でも……

ドリオ・デ・ガデックス 誉れは高い。何を言うかわかります。

ドン・ラティーノ まさしく！君の言うとおりで。

ドリオ・デ・ガデックス 前に先生がその言葉を言ってたから。

ドン・ラティーノ マダム・コレット、あなたはいまや有名な未亡人ですよ。その深い悲しみのなかで、スペイン第一の詩人の伴侶であったことをあなたは誇りに思うべきです！貧しさのなかで亡くなった、天才の死がそうあるべきように！マックス、もうあなたはこの忠実な犬に一言も声をかけてくれないのですね！マックス、わが兄弟よ、年は下でも、誉れは……

ドリオ・デ・ガデックス 高い！

ドン・ラティーノ もうわたしに最後まで言わせてくれてもいいだろうに、ばか。若きモデルニスタたちよ、先生がお亡くなりになった、なのにスペイン・イスパノアメリカ詩壇では、あんたたちはみんな仲よくしている！わたしはこの冷たくなった死体と、ふたりのうちどちらが先に旅立つか賭けをしたんだが、これまでと同じように、今度も負けてしまった！これまでに何度このことで賭けをしたことか！覚えてますか、兄弟！あなたは餓死してしまった、これからわた

しがそうなるように、われわれまともなスペイン人のすべてがそうなるように！あなたはすべての道を閉ざされた、だから餓死することで復讐をしたんです！よくやった！その恥辱がアカデミーのおかま野郎たちにも降りかかるように！スペインでは才能は罪なんだ！

ドン・ラティーノ、身をかがめ、死者の額にキスをする。小犬が柩の下、ろうそくの揺らめく光のなかでちょん切れた尻尾を振る。マダム・コレット、頭を上げ、悲嘆にくれる顔を横一列に並んだ三つのあやつり人形のほうに向ける。

マダム・コレット お願だからこの人を廊下に連れ出して！

ドリオ・デ・ガデックス アンモニアを嗅がせてやれば、すぐく酔っ払ってますから！
クラウドニータ 寝かせればいいのよ！まったくむかつくわ！

ドン・ラティーノ クラウドニータ！おませな女の子だ！

クラウドニータ 昨日の夕方外に行かなかったら、パパは生きていたのに！

ドン・ラティーノ クラウドニータ、わたしを不当に責めないでくれ！あんたは悲しみで気が動転しているんだよ！

クラウドニータ ごろつき！いつも迷惑をかけるんだから！

ドン・ラティーノ あんたがわたしを愛してくれてることはわかってるよ！

ドリオ・デ・ガデックス ラティーノさん、廊下に出てすこし歩きましょう。

ドン・ラティーノ 行こう！このシーンはあまりにも痛ましいから！

ドリオ・デ・ガデックス だから引き伸ばさないようにしましょう。

ドリオ・デ・ガデックス、老いぼれの酔っ払いをせきたて、ドアのほうに連れていく。小犬が柩の上を跳びこし、ふたりの後につづくが、跳びこす際にろうそくを一本傾ける。壁にもたれていたあやつり人形の列のあいだには、暗示的なすき間ができています。

ドン・ラティーノ 赤ワインをおごるよ。どうだね？

ドリオ・デ・ガデックス ご存じかと思いますが、ぼくはひとの好意を無にしない男なんです、ラティーノさん。

ふたりは長くもの寂しい廊下の赤っぽい薄暗がりのなかに姿を消す。水差しのそばには猫、廊下の敷石は代赭色の光沢を放っている。クラウドニータ、怒りのあまり目を真っ赤にし、ふたりが出ていくのを見る。その後で激しく泣きだし、両手で握りつぶしたハンカチを噛む。

クラウドニータ むかつくわ！見てられない！あの男がパパを殺したんだわ！

マダム・コレット どうかそんなばかこと言わないで！

- クラウド・ディニータ あいつが殺したのよ。あんなやつ大嫌い！
- マダム・コレット このときがきたのは宿命よ、あなたも知ってるでしょう、あたしたちがこのときがくるのを予期していたこと……目が見えなくなった悲しみがあの人を殺したのよ……仕事ができなかったけど、いまは休んでいるわ。
- クラリニート いまやみんながあなたの方の才能を認めていますよ。
- ペレス もはや影を投げかけません。
- マダム・コレット あなたたちのような、多くの辛酸をなめながら闘っている若者たちの賛辞がなかったら、この晩年において、あの方は一人ぼっちな思いをしたことでしょう。
- クラウド・ディニータ いまはもっと一人ぼっちな思いをしてるわ！
- ペレス 先生はぼくたちと同じように反逆者だった。
- マダム・コレット マックス、ひどい人ね、あなたはひとりで死んでしまった！あなたひとりで、この哀れな女たちのことを考えずに！あなたは一生働きづめで死んでしまった！
- クラウド・ディニータ パパはすごくいい人だったわ！
- マダム・コレット でも自身にとっては悪い人だった！

上着のボタンをかけ、地味な格好をした背の高い男が戸口に現れる。アナーキストのユダヤ人のような赤い大きなひげ、強情なパイソンのような額¹²⁸の下に嫉妬深そうな目。無類のドイツ人ジャーナリストで、警察のブラック・リストにはロシア人のアナーキストとして記載され、バシリオ・スリナーケ¹²⁹の偽名で知られている。

バシリオ・スリナーケ 諸君、ごきげんよう！

マダム・コレット ごめんなさいね、バシリオ！座っていただく椅子ひとつありませんのよ！

バシリオ・スリナーケ ああ！わたしのことはどうかおかまいなく。いっこうに。お氣遣いは無用です、マダム・コレット。あなた方スペイン人の言い方をまねれば、ワロン人衛兵¹³⁰のようにすこし遅れてしまいすみません。わたしたちスラブ移民が食事する酒場で、わが友マクシモ・エストレリヤが亡くなったことを知ったばかりですから。ピカ・ラガルツスのボーイが新聞を渡してくれました。不慮の死ですか？

128 これはValleのエスペルベントにおいてよくみられる擬獣化animalizaciónという表現手法である。原語はbajo el testuz de bisonte obsinadoであるが、testuzは人間ではなく馬などの動物の額や眉間を意味する単語である。先に挙げた人形化と同じような効果をもつ。

129 この人物のモデルはロシア人の亡命作家でボヘミアンのアナーキストErnesto Barkとされている。

130 ワロン人はベルギー南部のワロニア地方Wallonieに住む民族で、18世紀初頭、Felipe五世は身辺の警護のためにワロン人の衛兵を用いた。

マダム・コレット 心臓麻痺です！体に気をつけませんでした。

バシリオ・スリナーケ 誰が死亡を認定したのですか？スペインの医者はたいへんすぐれていて、よその国の最良の医者と同じです。しかし、完全に世界的な権威というものはありません。その点はドイツと大違いです。わたしは十年間医学を勉強してきました、博士号はありませんが。ここに入ってきたときの第一印象は、自分が眠っている人の前にいるというもので、決して死者を前にしたものではありませんでした。それで、スペイン人の言い方をまねれば、わたしはこの第一印象にこだわりたいと思います。マダム・コレット、あなたには大きな責任があります。わが友マックス・エストレーリャは死んでいません！興味深いカタレブシー¹³¹の症例のあらゆる特徴がみられます。

マダム・コレットとクラウディニータ、急に鋭い目つきになり、大きな叫び声をたて、抱き合う。ふたりの手は痙攣し、額の上では巻き毛が舞っている。管理人のフローラ夫人が息を切らしてやってくる。激しい息づかいとサンダル音が彼女の存在を知らせる。

女管理人 霊柩車が来ましたよ！十分ですか、いまは亡き故人の体を下に運ぶのに？足りなければ、亭主にきてもらいますが。

クラウディニータ ありがとう、あたしたちだけで足りるわ。

バシリオ・スリナーケ 管理人さん、霊柩車の御者に埋葬は延期すると伝えてください。さっさとお引取りを願って。あなたがたスペイン人はこういう言い方をするものではありませんか？

マダム・コレット 待っててもらって！……バシリオ、あなたの間違いかもしれませんから。

女管理人 通りに山高帽やモーニングがみられますよ¹³²。あたしの見間違いでなかったら、金銀モールで飾りたてた馬車も！まったく世間とは、まるで市会議員のお葬式みたいです！思いもありませんでした、故人がこんなにも偉い人だったなんて！マダム・コレット、葬儀屋にはなんて伝えますか？あの男は待ってないでしょうから！カルロス・ルビオ通り¹³³にもうひとつ葬式があると云ってます。

マダム・コレット ああなんてこと！聞いてなかったわ。

女管理人 クアトロ・カミーノス地区¹³⁴ですよ！一レグア以上あるから、ぐ

131 ある姿勢を受動的にとらされると、それを保ち続け、自分から元に戻そうとしない症状。強硬症。

132 これも擬物化cosificaciónの一例である。

133 マドリードのGlorieta de Cuatro Caminos (クアトロ・カミーノス・ロータリー) 近くにある通り。

134 マドリード市街北部にある下町地区。

ずぐずしてられないんですよ！
クラウド・ディニータ 行かせればいいわ！戻ってこさせないで！
マダム・コレット 待ってられないわ……きっと……
女管理人 費用が全部で二倍になりますよ、もう二、三時間家のなかにおいておいたら。遺体を運ばせて、マダム・コレット！
マダム・コレット それで死んでなかったらどうするの！
女管理人 死んでないって？あなたたちはここから出ないから、腐敗が始まっているのがわからないんですよ。
パシリオ・スリナーケ 管理人さん、言うてみてください、あなたは大学で医学の勉強をしたことがあるのかね？もしそうなら、わたしは口をつぐみ、これ以上何も言いません。でももしそうでないなら、彼が死んでなくカタレプシーを起こしているだけだとわたしが言っても、余計な口出しはしないでください。
女管理人 死んでないですって！死んで、腐敗を起こしてます！
パシリオ・スリナーケ あなたは大学の勉強をしてないのだから、わたしと論争することはできません。管理人さん、ご存じのように、民主主義は技術的な範疇を排除しません。
女管理人 もどかしいったらありやしない！それじゃあ死んでないって言うんだね？あなたもこの人と同じようなものだね！マダム・コレット、鏡がありますか？口に当ててみれば息がかからないのがわかりますよ。
パシリオ・スリナーケ それは非科学的な検証というものです！あなたがたスペイン人がよく言うように、お元気でなにより、といった状態ですよ。こういう言い方をするのでは？
女管理人 あなたがここにきたのは、討論集会を開き、ぺてんを用いてこの気の毒な女性たちを^{そそのか}唆すためなんだね、悲しみや借金でもうたくさんだというのに。
パシリオ・スリナーケ そうやって話しつづければいい。見てのとおり、わたしは止めたりしませんから。

戸口に霊柩車の御者が現れる。酔っ払い特有の鼻をし、帽章のついた古いシルクハット、すりきれた喪服、麻くず製のかつら、黒いズボンを身につけている。

御者 もう四時ですよ、カルロス・ルビオ通りに客がもうひとりいるんだがね！
パシリオ・スリナーケ マダム・コレット、わたしが責任を持ちます、ドイツの病院でカタレプシーの症例を見たり学んだりしていますから。あなたのご主人、わが友にして仲間のマックス・エストレーリャは死ん

でいせん！
女管理人 騒ぎを起こしたいんですか、あなた？マダム・コレット、どこかに鏡がありませんか？
バシリオ・スリナーケ それは非科学的な検査ですよ！
御者 親指に火のついたマッチをあててみてください。最後まで燃えたら、この体はわしの祖父と同じで死んでますよ。それでもし間違っていたら、ご容赦を！

霊柩車の御者、鞭を壁に立てかけ、マッチを擦る。柩の前でかがみ込み、組み合わせられた死者の手をほだき、一方の手の黄色みがかった掌を返す。親指の腹に燃えるマッチをおくと、燃えつづけ、燃えつきる。クラウドニータ、甲高い叫び声をたて、顔をしかめ、床で頭をたたき始める。

クラウドニータ パパ！パパ！大好きなパパ！

第十四景

東墓地の中庭。寒い午後。激しい風。墓石にあたるたそがれの光は、殺伐とした攻撃性を帯びている。ふたりの墓掘り人が墓土を踏み地ならししている。しばし作業を中断する。ライターを取りだし、耳にはさんでおいたタバコの吸いさしに火をつける。墓のそばに腰をおろしタバコを吸う¹³⁵。

墓掘り人1 この男は物書きだった。
墓掘り人2 貧弱な葬式だったな！
墓掘り人1 新聞には有能な人と書いてある。
墓掘り人2 スペインでは有能さは称賛されないんだ。盗みをしたり破廉恥であることが称賛される。スペインではすべて悪いことが称賛される。
墓掘り人1 そんな悲観的なことばかり言うのはよくないぞ。
墓掘り人2 あそこにポリョ・デル・アレテ¹³⁶がいるぞ！
墓掘り人1 あいつは何を手にいれたんだ？
墓掘り人2 腹黒いやつだが王様のような暮らしをしている。ほら、未亡人としてよくやっているぞ、ある市会議員の。
墓掘り人1 市議会の盗人^{ぬすっと}と言えよ。
墓掘り人2 お前の言うとおりだ。社会的地位のある女があんなやつにうつつを抜かすようなことがあっていいと思うか？

135 この第十四景はShakespeareの*Hamlet*『ハムレット』の第五幕第一景のパロディーである。

136 Pollo del Areteはあだ名。polloは若造、ぼんぼんの意で軽蔑的なニュアンスをもつ。areteは小さな輪、ピアスだから、このあだ名は「ピアスをしたやさ男」といったくらいの意味である。

墓掘り人1 目が見えないのさ。セックスのなせる業さ。
墓掘り人2 それが勝利を手にする秘訣だ！すべてに通ずる法則だよ！
墓掘り人1 お前はあの女を知っているのかい？いい女か？
墓掘り人2 グラマーな女だよ。歩くと尻が揺れる！いい女だ！
墓掘り人1 なんて運のいいやつなんだ！

墓石と十字架の道を通り、皆から遅れたふたつの人影が対話しながら歩いてくる。マクシモ・エストレリャの葬儀に参列したふたりの友人である。小声で話しながらゆっくりと歩く。その心は死に対する敬虔の念にとらわれているようである。ひとりには真っ白いあごひげを生やし、スペイン式マントを羽織った老紳士、ケルト人のブラドミン侯爵である。もうひとりとは深遠なインディオ、ルベン・ダリーオ。

ルベン 久方ぶりにわたしたちが^{セメントリオ}墓地で出会ったということは恐ろしいほど意味深長ですね！
侯爵 ^{カンポサント}神聖な地¹³⁷でじゃよ。われらの出会いはこの言葉のもとで異なった意味を持つことになる、ルベン君。
ルベン ^{セメントリオ}おっしゃる通りです。^{ネクロポリス}墓地でも墓所でもない。これらの言葉は文法の学習とおなじで、陰気でぞっとするような冷たさがある。侯爵、ネクロポリスという言葉にあなたはどんな印象を覚えますか？
侯爵 官学風のペダグチズムじゃな。
ルベン ネクロポリスはわたしにとってすべての終わりとおなじです。取り返しのつかないこと、ぞっとさせること、ホテルの一室で希望もなく死ぬことを意味します。それでカンポサントはというと？カンポサントには灯明があります。
侯爵 金色に輝くドームがある。その下で稀にみる恐ろしいラップが宗教的な響きをたてるのじゃよ、ルベン君。
ルベン 侯爵、不確かなことへの恐怖が存在しなければ、死は多くの場合親しみやすいと思うのですが。三千年前のアテナイでもわたしは幸せだったでしょう！
侯爵 わしはキリスト教徒としての洗礼を、シニカルなギリシア人の微笑みと取りかえる気はない。わしは犯した罪により永遠になりたいのじゃ。
ルベン すばらしい！
侯爵 ギリシアではおそらく今よりも穏やかな人生を送ることになろう……
ルベン あのギリシア人たちだけが人生を賛美するすべを知っていたのです！

137 camposantoは神聖な地の意味だが、語としては墓地の意である。なお、この箇所に出てくる cementerio も necrópolis も墓地を表すスペイン語である。

侯爵 われらは死を賛美する。人生はつかの間のものでしかなく、死こそ唯一の真実なのじゃ……それでさまざまな死のうち、わしはキリスト教徒としての死を選ぶ。

ルベン なんとすばらしいスペインの郷土の哲学！すばらしい！侯爵、彼女の話はもうこれくらいにしましょう！

ふたりは口をつぐみ、黙って歩く。墓掘り人たち、墓土の地ならしを終え、ひとりずつ同じ壺から口に水を流し飲む。白い墓石の上で、ふたりの人物はその黒い輪郭を際立たせている。ルベン・ダリーオとブラドミン侯爵、掘り返した黒っぽい土の前で立ち止まる。

ルベン 侯爵、どのような訳でマクシモ・エストレリャの友人になったのですか？

侯爵 マックスは戦時中わしのそばで死んだあるカルロス党の大尉の息子だった¹³⁸。彼はほかの話をしていたかね？

ルベン あなたがたがあのメキシコの地で、革命のために一緒に戦ったと話していました。

侯爵 なんとという空想！マックスが生まれたのはわしのメキシコ旅行の三十年後じゃよ¹³⁹。わしが何歳か知っているかね？まもなくこの背に百の齢^{よかい}を背負うことになるのだよ。すぐにわしは死ぬだろう、詩人のルベン君！

ルベン あなたは永遠に不滅です、侯爵！

侯爵 わしはそれを恐れている、だが辛抱じゃ！

墓掘り人たちの黒い人影が、肩に光る鍬をかつぎ、墓の中の道を通り近づいてくる。近づく。

侯爵 オフィーリアのときのような哲学者たちだろうか？

ルベン どこぞのオフィーリアと知り合いで、侯爵？

侯爵 思春期ですべての娘がオフィーリアじゃよ。あの娘もすぐく世間知らずだった、ルベン君。それで王子は、あらゆる王子たちと同様、まぬけだった！

ルベン あなたは巨匠ウィリアムがお好きでないのですね？

侯爵 わしの文学修行時代には、師と仰いだ。すばらしいひとじゃ！世

138 ブラドミン侯爵の第二次カルリスタ戦争におけるエピソードは、*Sonata de invierno*『冬のソナタ』(1905)のなかで描かれている。

139 同じく侯爵のメキシコでのアヴァンチュールは、*Sonata de estío*『夏のソナタ』(1903)のなかで描かれている。

間知らずのことこの上ない小心者の哲学者と愚かな小娘でもって、最も美しい悲劇作品をつくるという奇跡を起こしたのだから。ルベン君、ハムレットとオフィーリアは、われらがスペイン演劇では、ふたりの快活な人物となるだろう。小心者と愚かな小娘！あの栄えあるキンテロ兄弟¹⁴⁰だったらきっとそのようにしたであろうよ！

ルベン われわれすべてにハムレットの要素があります。
侯爵 まだ女性を口説く君にはな。寄る年波のこのわしは、ヨリックのされこうべ¹⁴¹にずっと近い。
墓掘り人1 旦那がた、出口を探しておいででしたら、一緒にきなせえ。もうすぐ閉まります。
侯爵 ルベン、中に残るといえるのはどうじゃな？
ルベン ぞっとします！
侯爵 それではこの者たちの後をついていこう。
ルベン 侯爵、明日われらが友の墓に十字架を置きに戻りましょうか？
侯爵 明日だって！明日になったらそのようなキリスト教徒らしい意図は忘れてしまうだろうよ。
ルベン おそらくは！

ふたりは口をつぐみ、遅れながら墓掘り人たちの後をついていく。彼らは墓地の道の曲がり角にくるたびに立ち止まり、ふたりを待つ。

侯爵 歳のせいでわしはこれ以上速く歩けん。
墓掘り人1 言い訳はご無用で、旦那。
侯爵 まもなくわしは百歳をむかえる。
墓掘り人2 これまでずいぶんと埋葬をごらんになったことでしょうねえ！
侯爵 そなたたちがその仕事の古参でなければ、おそらくわしのほうが多いだろう。で、この時節は多くの人が亡くなっているかね？
墓掘り人1 仕事にはこと欠かねえ。子どもや老人たち。
墓掘り人2 落葉の季節はよくひとが亡くなりますから。
侯爵 そなたたちは埋葬ごとに手当てをもらうのか？
墓掘り人1 どんな場合でも三ペセタの日当で。近頃は物価高だから、食うのが精一杯でさあ。臨時の実入りがねえこともねえ、でもつまるところはみじめな生活で。
墓掘り人2 すべては運次第でさあ。それがすべてです。

140 Valleと同時代の通俗的な劇作家Serafin (1871-1938) y Joaquín Álvarez Quintero (1873-1944) のこと。アンダルシアの風俗や方言を舞台にのせた。この言及には皮肉がこめられている。

141『ハムレット』の墓地のシーン (V, 1) からの引喩。ヨリックは国王の道化師だったという人物。

墓掘り人1 遺族の中には、墓の面倒をみてもらうために何がしかのお金を払うものもあります。口約束はするものの支払ってくれない者もいる。たいがいの遺族は最初の数ヶ月は払ってくれる。でも一年もすりゃあ、百に一つですよ。悲しみは長つづきしない！

侯爵 深い悲しみに暮れる未亡人は知らないかね？

墓掘り人1 ひとりもいねえ！いてもおかしくねえと思うんだが。

侯爵 アルテミシアとマウソロス¹⁴²の話、聞いたこともないかね？

墓掘り人1 俺はぜんぜんねえ。

墓掘り人2 この場所にやってくる親族はたくさんいるから、みんなを知ること容易でねえ。

ふたりはひじょうにゆっくりと歩く。腹想に耽るルベン、封筒になにか言葉を書きつける。墓地の門にたどりつく。門の黒い鉄柵が軋る。思いやりのある侯爵は象牙のような手をマントから出し、二人の墓掘り人に何がしかの金を与える。

侯爵 そんなたちは神話は知らないが、ともにストア派の哲学者じゃ。今後も多くの埋葬を見つづけるように。

墓掘り人1 おっしゃる通りに。どうもありがとうございます！

墓掘り人2 あっしも同様です、旦那。

墓掘り人たちは帽子をとりながら挨拶し、遠ざかる。ブラドミン侯爵、微笑を浮かべ、マントにくるまる。ルベン・ダリーオ、数行の言葉を書きつけた封筒を手にしたままにいる。老侯爵の馬車が土塀のそばを離れ、墓地の門に近づいてくる。

侯爵 詩かね、ルベン君？読んでみてくれないか？

ルベン 推敲し終わりましたら。まだ下書きですから。

侯爵 ルベン君、詩というものはその過程のすべてを発表すべきだよ、君が下書きと呼ぶものから決定稿まで。そうすればエッチングの試し刷りのような効果が得られるだろう。どうだ、読んでくれないか？

ルベン 明日に、侯爵。

侯爵 このわしの歳を考えたら、それに墓地の門では、明日という言葉は禁句じゃよ。ともかく、車に乗ることにしよう。まだぶったくり屋を訪ねる用事が残っているからな。君に手伝って欲しいのだよ、わしの回想録¹⁴³の原稿がある出版者に売り渡すのを。金が必

142 マウソロスは前4世紀の小アジアのカリアの支配者。その死後、王妃アルテミシアは首都ハリカルナッソスに大陵墓を建造した。このマウソレウムを古代人は世界七不思議のひとつに数えていた。

143 Valleの*Sonatas*『四季のソナタ』四部作には「ブラドミン侯爵回想録」のサブタイトルがついている。

要なのじゃ。ブラドミンの館に隠棲するという愚かな考えを抱いてからというもの、わしはまったくの破産状態じゃ。わしは色恋に明け暮れてきたが、女性で身を滅ぼすことはなかった、だが、いま農業で身を滅ぼそうとしている！

ルベン

すばらしい！

侯爵

わしの回想録はわしが死んだ後に出版されることになる。わしは今あれを売ろうと思っている、まるで骸骨を売るみたいにな。互いに助け合おうではないか。

最終景

ピカ・ラガルトスの酒場。薄暗がりの中、アセチレン灯の光が揺れている。カウンターの前でドン・ラティーノ・デ・ヒスパリス、ろれつの回らない口調でポリョ・デル・パイパイに執拗に酒をすすめている。よろめきながら、相手にからんでいる。

ドン・ラティーノ 飲んでくれ、友よ！君にはわかるまい、わたしの胸が悲しみで張り裂けそうなのを！飲んでくれ！ワインの滓も残さずに飲むぞ！

ポリョ あなたは育ちがよくないですからね。

ドン・ラティーノ 今日われわれはスペイン第一の詩人を埋葬した！墓地には四人の友人！それがすべて！文芸倶楽部のくそつたれひとり来なかった！あんたはどう思う、ベナンシオ？

ピカ・ラガルトス おっしやる通りで、ドン・ラティーノ。

ドン・ラティーノ 天才はおのれの光で輝くのだ！そうじゃないか、ポリョ君？

ポリョ そのとおりです、ラティーノさん。

ドン・ラティーノ わたしは彼の作品を出版する任務を引き受けた！名誉ある仕事だよ！わたしは彼の信託処分者だ！彼は『レ・ミゼラブル』にも匹敵する社会派小説を書き残した。わたしが彼の信託処分者なのだ！全作品の総収益は遺族のために！それらを出版することで破産するはめになってもわたしはかまわない！それは友人として当然の義務だ！夜の巡礼者と同じく、わが不滅の希望は地表を見つめない！諸君、文芸倶楽部からは誰ひとり来なかった！それは本当だ、四人の友人、四人の著名人のみ！内務長官、ブラドミン侯爵、ルベン、それに小生。違うか、ポリョ君？

ポリョ 王女¹⁴⁴もいたと言ってもいいんじゃない？

ピカ・ラガルトス マックスさんの埋葬に政府の高官がいたというのはちょっと言い過ぎだと思うが。そんなことを言い触らしたら、あんたの身によ

144 Isabel IIの娘Isabel de Borbón王女（1851-1931）のこと。王女は様々な民間の会合やパーティーに姿を見せ、マドリードの人たちの間で人気があった。

- くないことが降りかかるかもしれないよ。
- ドン・ラティーノ わたしは嘘なんか言っていない！墓地に内務長官がいたんだ！挨拶も交わした！
- 酒場のボーイ ファントム¹⁴⁵だったんじゃない？
- ドン・ラティーノ お前はだまっている、まぬけ。ドン・アントニオ・マウラはガリョガリョの家に弔間に行ったらしいな！
- ポリョ ガリョ小雄鶏ホセ・ゴメスはスターでしたが、闘牛場で死んでしまいました、すばらしい演技の最中に。なにしろ闘牛王でしたからね。
- ピカ・ラガルトス それで、地震テレモート、つまりフアン・ベルモンテ¹⁴⁶は？
- ポリョ あのひとはインテリです！
- ドン・ラティーノ ボーイ、もう一杯ずつ。今日はわが人生で最も悲しい日だ！わたしは親友にして師であった人を失ったのだ！だから飲んでいるんだ、ベナンシオ。
- ピカ・ラガルトス もう勘定がすごい額になってるよ、ドン・ラティーノ！財布の中身を調べてみたら、いくらあるか。念のため！
- ドン・ラティーノ この安っ酒場をあんたも込みで買うだけの金を持っているよ。

ドン・ラティーノ、外套のふところから一つかみの紙幣を取り出し、カウンターの上に投げ出す。伊達男のゆがんだ眼差しとベナンシオの哑然とした表情。酒場のボーイ、酔っ払いの泥のはねだらけのひよろ長い脚のあいだで舞う紙幣をつかもうとしゃがみこむ。酒場の片隅で憂鬱そうにしていたエンリケータ・ラ・ピサビエン、額のハンカチをはずし、しゃきとしてカウンターの方を窺う。

- 酒場のボーイ 遺産が入ったんですか、ドン・ラティーノ？
- ドン・ラティーノ 何ペセタか貸しがあったのを、返してもらったんだよ。
- ピカ・ラガルトス 何ペセタなんていう額ではない。
- ラ・ピサビエン 一万ペセタよ！
- ドン・ラティーノ あんたに借りがあるかい？
- ラ・ピサビエン モチよ！あたいが売った宝くじが当たったんだわ。
- ドン・ラティーノ そんなことはない。
- ラ・ピサビエン 五七七五の番号よ。
- 酒場のボーイ その番号はマックスさんが持っていた！
- ラ・ピサビエン 結局のところ、あの人がいらないといったんで、ドン・ラティーノが持っていたんだよ。このしみつたれときたら、まだあたいに

145 フランスの探偵小説家Pierre Souvestre (1874-1914) が書いたシリーズ物の小説に登場する神出鬼没の怪盗。

146 セビーリャ生まれの有名な闘牛士Juan Belmonte García (1892-1962)。Terremotoという異名をもっていた。

チップを払ってくれてない。
ドン・ラティーノ すっかり忘れていた！
ラ・ピサビエン もの覚えがよくないんだから。
ドン・ラティーノ チップをやるよ。
ラ・ピサビエン たっぷりおくれよ。
ドン・ラティーノ わたしの気前のよさ、当てにしてくれていいよ。

酒場のボーイ、主人の背後に回り、こっそりと合図するように前掛けを引っぱる。ピカ・ラガルトス、レジに鍵をかけ、ワインの革袋が積んである暗がりではボーイと一緒にいる。ふたりは表情豊かに内緒話を交わすが、目と耳はカウンターにじっと注いでいる。ラ・ピサビエン、ドン・ラティーノに目くばせをする。

ラ・ピサビエン ドン・ラティー、その一万ペセタ、あたいにおくれよ！
ドン・ラティーノ マンションを買ってやるよ。
ラ・ピサビエン 男らしいわあ！
ドン・ラティーノ クリスピン、このご婦人にアニス酒を一杯さしあげてくれ。
酒場のボーイ いますぐ、ドン・ラティー！
ドン・ラティーノ そこで告解をしているのかい？
ラ・ピサビエン ドン・ラティー、あんたってすごくいい人ね！あんたってイカしてるわ！ねえ、つねるのはやめて！
ポリョ ラティーノさん、気をつけたほうがいいよ、みんながその大金狙っているから。
ラ・ピサビエン あたいたち、あの宝くじ半分ずつ出しあっていたのよ！ドン・ラティーが一ペセタ五十、このあたいが六レアル¹⁴⁷。
ドン・ラティーノ それってふんだくりだぞ、エンリケータ！
ラ・ピサビエン 怖気はあのハゲにまかしとけばいいのよ¹⁴⁸！またあたいをつねって！あんたって狂ったヤギみたい！
ポリョ その女、あなたにふさわしくないよ。
ラ・ピサビエン 一週間もすればお墓に入ってしまうわ。
ドン・ラティーノ まあ、見てみよう。
ポリョ あなたには熱の冷めた女のほうがふさわしいよ。
ラ・ピサビエン あなたにはあたいのおかさんがびったりだ。でも、あたいのおかさんはきちんとした寡婦^{やいめ}だから、どうかしたかったら、ラ・パサ通り¹⁴⁹に連れて行かなくちやいけないよ。

174 1レアルは25センチモに相当。つまり6レアルと1ペセタ50センチモは同額である。

148 有名な禿頭の闘牛士Rafael Gómez el Gallotは、闘牛の際、時々怖気の発作に襲われた。

149 マヨール広場Plaza Mayor近くにある通り。当時マドリード市民はこの通りにあった助任司祭館で婚姻の手続きを行った。

- ドン・ラティーノ わたしは自由恋愛の擁護者だよ。
- ラ・ピサビエン あんたはおつかさんと、それにあたいと一緒に暮らすのよ。「スペイン通信」に広告を載せている真面目な紳士のように¹⁵⁰。ちょうどあたいとこの下宿人のひとりが生きるのが厭になって、寝室がひとつ空いたから、あんたそこに入って。どこへ行くの、ドン・ラティーノ？
- ドン・ラティーノ 小便をしに。すぐ戻ってくるよ。気をもまずに、待っていてくれ。
- ラ・ピサビエン ドン・ラティーノ、あたいは嫉妬深い女なんだ。一緒についてくよ。

ピカ・ラガルトス、ボーイとの内緒話をやめ、すばやく酒場の中を横切る。入口のところで、外套の襟をつかみ酔っ払いをとどめる。ドン・ラティーノ、目くばせをし、顔をゆがめ、あやつり人形をまねて腕をだらりと垂らす。

- ドン・ラティーノ 乱暴はよしてくれ！
- ピカ・ラガルトス 話があるんだ。故人はこの店に三千レアルを超えるツケを残している。いま勘定書きを見せてあげるけど、あんたが支払うべきと思うんだ。
- ドン・ラティーノ どういう訳で？
- ピカ・ラガルトス あんたが抜け目のない人だからさ、もうこの話はよそう。

ポリョ・デル・パイパイ、ふらつきながら近づく。わざとナイフを隠し持っていることを匂わせ、咳をし、帽子を横向きにし頭を搔く。エンリケータ、ショールを振り分け、こっそりと折畳み式ナイフを開く。

- ポリョ ここはみんなの目があるから、あの一枚はちょっと拝むだけにしておこう。
- ラ・ピサビエン あたいが腕を組んでドン・ラティーノを外に連れだすよ。
- ポリョ いい思いつきだ！
- ピカ・ラガルトス おい、間抜けめ、刃物なんかしまっておけ、騒ぎはごめんだ。
- ポリョ ドン・ラティーノ、銀行を襲ったんだね！
- ドン・ラティーノ もちろんさ。
- ラ・ピサビエン よけいなこと言わないで、ニカノール。ドン・ラティーノは宝くじで五七七五の番号が当たったのよ。あたいがその番号を売ったんだよ！

150 当時の新聞には“Caballero formal y discreto desea amistad y protección de señora”(分別のある真面目な紳士がご婦人との親交およびその庇護を望んでいる)とか“Daré protección a dos señoritas huérfanas y honradas”(おこないのよい孤児の娘ふたりを庇護します)といった内容の広告がよく載っていた。当然のことながら、これらの広告の背後には、男性の偽善的でスカンダラスな行為や女性の困窮ゆえの墮落といった当時の世相が隠されている。

(堀 内)

ピカ・ラガルトス この子と俺が見ていた。そうだよな？
酒場のボーイ その通りです！
ポリョ 違うぞ！

新聞を売る遣り手婆のパコーナ、新聞の小さな束を持って酒場に入ってきて、カウンターの上に「エラルド」を一部置く。入ってきたときのように、黙ってあたりを窺いながら退場。入口を出ると、星空を見上げ、ふたたび大声で呼び売りする。

新聞売りの老婆 エラルド・デ・マドリード！スペイン通信！エラルド！バスタルディーリョス通りでふたりの女性が謎の死！スペイン通信！エラルド！

ドン・ラティーノ、気難しい、謎めいた表情をし、みんなを押しわけ、カウンターに近づく。アセチレン灯の光の輪の下、両手で新聞を広げ、記者が興味を煽るべく報じているバスタルディーリョス通り事件の見出しを、ろれつの回らない口調で読み上げる。ほかの者たちは、まるで気のふれた老人を見るように、愚弄と不審の入り混じった目で彼を見ている。

ドン・ラティーノの朗読 炬燵^{こたつ}のにおい。ふたりの女性が窒息死。近所の人の話。ドニャ・ピセンタは何も知らない。犯罪か自殺か？謎！
酒場のボーイ 新聞に死んだ人の名前がのっているか見てくださいよ、ドン・ラティーノ。
ドン・ラティーノ 見てみよう。
ポリョ さあ頭をすっきりさせて、老いぼれのぼんくらさん！
ラ・ピサビエン ドン・ラティーノ、さあ早く。
酒場のボーイ 思いきって言うけど、そのふたり、マクシモさんの奥さんと娘じゃあない？
ドン・ラティーノ ばかな！ どうして自殺しなければいけないんだ？
ピカ・ラガルトス ひどい生活苦だった！
ドン・ラティーノ それにはもう馴れていたよ。たったひとつ説明のつくことがある。あの巨星を失ったことの悲しみだよ！
ピカ・ラガルトス 今ならあんたが救えたのにな。
ドン・ラティーノ もちろんだ！ この通りわたしの心は寛大だからな、ベナンシオ！
ピカ・ラガルトス 人生はままならない！
ドン・ラティーノ エスペルペントだ！
酔っ払い 大天才！